

塚ノ杵池のトビケラ相—池干し後の採集結果

野崎隆夫*

猪高緑地にある塚ノ杵池では、2011年秋から約1年かけて、堤体工事にともなう池干しとともにこの池に繁茂する外来の水草の一部除去作業を行った。この工事による影響を見るための調査の一環として、工事前のトビケラ相を調査しすでに報告したが(野崎, 2011)、ここでは工事後のトビケラ相について報告する。なお、作業期間中完全に水が涸れることはなかった。

調査方法

成虫の調査は、2012年の10月4日および2013年の3月28日、5月27日、7月26日の計4回、工事前と同じ灯火採集セット(捕虫用蛍光灯計 70W)を用い行った。幼虫は、各調査日の夕方に灯火採集地点付近の水中を目視で探索したほか、2013年3月28日には池をほぼ一周して岸近くの水中を目視および手網で採集した。標本はいずれも80%エタノール中に保存し、すべて筆者が保管している。

結果と考察

調査期間中に採集された成虫は、3科4属5種で、ヒメトビケラ科の2種(マツイヒメトビケラ、クロオトヒメトビケラ)以外はいずれも個体数が少なかった(表1)。工事前の調査では7科12属13種が採集され、ヒメトビケラ科のチョウセンヒメトビケラも多数採集されたのに比べると(野崎, 2011)、種数・個体数ともに激減した。灯火で採集したトビケラ成虫には池外から飛来したと考えられる種も含まれるが、止水性のムネカクトビケラ *Ecnomus tenellus*、アオヒゲナガトビケラ *Mystacides azureus*、セグロトビケラ *Limnephilus fuscovittatus* などが今回の調査では採集できなかった。特に、工事前に成虫・幼虫ともに確認できたセグロトビケラは、工事後の初夏と秋の成虫出現期に灯火に飛来せず、幼虫の筒巣サイズが大きくなる春の調査でも水中にその姿を見ることはなかったので、この池の個体群は絶滅した可能性が強い。今後これらの種が回復するのかどうか観察していく必要があるだろう。

表1 塚ノ杵池で採集されたトビケラ

種名	2012		2013	
	10/4	3/28	5/27	7/26
ヒメトビケラ科				
チョウセンヒメトビケラ <i>Hydroptila coreana</i> Kumanski				1♀
マツイヒメトビケラ <i>Hydroptila phenianica</i> Botosaneanu	9♂12♀		3♀	47♂49♀
クロオトヒメトビケラ <i>Orthotrichia tragetti</i> Mosely	11♂18♀		1♂	2♂5♀
クダトビケラ科				
カギヅメクダトビケラ属の1種 <i>Metalype</i> sp.				1♀
シマトビケラ科				
コガタシマトビケラ <i>Cheumatopsyche brevilineata</i> (Iwata)		1♀		2♀

文献

野崎隆夫 (2011) 塚の杵池のトビケラ相. ため池の自然, No.51: 2-5.

*〒259-0132 神奈川県中郡二宮町緑が丘 3-16-15